

2020 年度事業報告

(自 2020 年 2 月 1 日～至 2021 年 1 月 31 日)

公益社団法人 日本薬学会

I はじめに

日本薬学会は薬学における中核的学術団体として、医薬品の創製、製造、有効性と安全性、供給、適正使用、生体での作用機序に関する情報発信・交換・支援をはじめ、広く医療機器、再生医療、予防医学や生命科学に関する学術や産業の発展に貢献してきました。また薬剤師教育・薬学に関わる人材育成に関して文部科学省、厚生労働省、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、医薬品関連産業界や健康・医療関連産業界等との連携を基に、責務を果たしてきたと考えています。2020 年度に取り組んだ主な事項について以下に示します。

- ① 日本薬学会の最大の学術活動となる第 140 年会（京都）が、2020 年 3 月 25 日～28 日に「「創」と「療」の伝承と革新、そして新たな時代の幕開け」をテーマに、京都大学の中山和久組織委員長の下で、新型コロナウイルス感染拡大の影響で誌上開催という形で開催されました。
- ② 学会の支部・部会は、支部長会議と部会長会議の交流を通じて互いの位置づけを共有した上で、個々の計画に基づき活発な学術活動を展開しました。
- ③ 学術誌の更なる充実発展を目指し、Chemical and Pharmaceutical Bulletin、Biological and Pharmaceutical Bulletin について、毎月 Newsletter を配信すると共にファルマシアにグラフィカルアブストラクトを毎月掲載しています。また、審査に貢献した査読者、被引用数の高い論文、掲載数の多い著者を選考し、賞を授与するように致しました。生物系オープンアクセスジャーナル BPB Reports も既に第 3 巻が発行され、順調に論文が掲載されています。学会誌ファルマシアは本学会会員を含め、多くの薬学関係者への有効な情報提供を継続しています。
- ④ 学術情報発信として企画した新刊書籍『THE 創薬 — 少資源国家 “にっぽん” の生きる道 —』では各研究領域を代表する著名な先生方にご執筆いただき、間もなく刊行する予定です。
- ⑤ 学会主催の創薬セミナーはコロナ禍の影響で中止となりましたが、2021 年度はオンライン開催を予定しています。若手教育者のためのアドバンスワークショップの開催はコロナ禍の影響により見送りましたが、全国学生ワークショップはオンラインで開催致しました。日本学術会議との共催シンポジウム等を本年度もオンライン形式を中心に開催し、十分な成果が得られたと考えています。
- ⑥ 今年度も長井記念薬学研究奨励支援事業により博士課程大学院学生の勉学支援が行われました。

これらのほか、韓国薬学会（PSK）へのシンポジスト派遣（オンライン参加）、FIP（国際薬学連合）、AFMC（アジア医薬化学連合）、ドバイ国際医薬品会議（DUPHAT）との連携など積極的な国際交流活動を展開しました。また、新たな二国間国際交流活動としてカナダ薬学会（Canadian Society for Pharmaceutical Sciences (CSPS)）との合同シンポジウムを 2021 年度に Web 開催する予定です。

II 事業実施状況

1 代議員総会の開催

日 時：2020年3月25日（水）

場 所：ビデオ会議（日本薬学会2階会議室ABより開催）

2 学術研究・教育活動の推進

1) 学術誌の発行・表彰

(1) 学術誌の発行

学術誌3誌の特性を最大限に活かした原著論文・総説の掲載により、薬学ならびに関連分野における科学の発展に寄与してまいりました。

本学会の学術誌への投稿意欲を高めるために、査読期間の短縮、出版までの作業の効率化を継続的に推進してまいりました。

YAKUGAKU ZASSHI では臨床薬学領域研究の多様化に対応するため、臨床薬学領域の英文投稿およびケースレポートを受け付けました。

英文誌ではテーマを絞った、興味深い内容のカレントトピックスを掲載しました。また、発行日に合わせ Graphical Abstracts を掲載した HTML 形式の Newsletter を継続して配信してまいりました。

2020年度の学術誌の刊行は、以下のとおりです。

① YAKUGAKU ZASSHI 第140巻

掲載論文数：180編／昨年比18編減

（早期公開7編／昨年比1編減、英文投稿10編／昨年比1編減）

発行部数：600部（月刊）

② Chemical and Pharmaceutical Bulletin(CPB) 第68巻

掲載論文数：158編／昨年比25編減

（早期公開22編／昨年比12編減）

発行部数：560部（月刊）

③ Biological and Pharmaceutical Bulletin(BPB) 第43巻

掲載論文数：281編／昨年比11編減

（早期公開68編／昨年比5編減）

発行部数：560部（月刊）

(2) 授賞

学術誌発行において審査に貢献した査読者、被引用数の高い論文、掲載数の多い著者（連絡著者に限る）を選考し、賞を授与いたしました。

① Top Reviewer Award

YAKUGAKU ZASSHI、CPB、BPB（各1件）

② Highly Cited Review Award、Highly Cited Article Award

CPB、BPB（各1件）

③ The Most Published Author Award

CPB、BPB（各2件）

2) オンラインジャーナルの発行

生物系オープンアクセスジャーナルのBPB Reportsでは、投稿者の幅広いニーズにこたえるため、学術誌3誌にはないReportという論文カテゴリーを設け、掲載を行ってまいりました。

2020年度の発行は、以下のとおりです。

BPB Reports 第3巻

掲載論文数：39編

3) J-STAGE との連携

高度情報化社会の趨勢と、本学会の公益性を視野に、学術誌3誌を発行日と同日にJ-STAGE(科学技術振興機構)にて全文公開をいたしました。また、BPB Reportsの全文公開も開始いたしました。

4) 学術研究集会の開催および部会・支部活動の支援

(1) 年会の開催

年会は、領域の異なる研究者が一堂に会して、薬学の進歩を横断的に知ることのできる全国規模の大会です。特にシンポジウムの企画・募集にあたっては、多様な領域を包含できるものとなるよう留意してまいりました。第140年会および第141年会について、組織委員会を中心に次のとおり企画ならびに開催いたしました。

①第140年会(京都)

日時： 2020年3月25日(水)～28日(土)

場所： 誌上開催

テーマ： 「創」と「療」の伝承と革新、そして新たな時代の幕開け

組織委員長： 中山 和久(京都大学大学院)

②第141年会(広島)

日時： 2021年3月26日(金)～29日(月)

場所： オンライン開催

テーマ： 『革新的創薬と持続的医療の融和～Harmonization of Innovative Drug Development and Sustainable Health Care from HIROSHIMA to the WORLD～』

組織委員長： 小澤 光一郎(広島大学大学院)

(2) 部会の活動

部会は、薬学研究の高度化と若手研究者や薬学生の育成を共通の主要課題とし、シンポジウム、フォーラム、研究会等を開催するとともに、創薬研究者の育成等、各部会の環境、状況にあわせて特色ある活動を進めてまいりました。また、部会間で協力し、他機関との連携を図りました。

本年度の部会活動の詳細は(別紙1)のとおりです。

(3) 支部の活動

支部は、地域ごとに会員が日本薬学会を身近な存在として活用できる場です。学生会員の積極的な参加を促す学術集会、地域薬剤師会との交流、薬学講習会での最新情報の入手、支部表彰事業ならびに高校生への薬学ガイダンス等地域の特性を生かした

事業展開を行うよう努力してまいりました。一般社会へ薬学の正しい理解を広げるとともに、若い世代へ積極的に働きかけを行い、会員増強運動を進めました。本年度の支部活動の詳細は（別紙2）のとおりです。

（4）創薬セミナーの開催

本セミナーは、創薬に係わる最先端の話題と情報を提供し、今後の創薬に関して有益な議論をする場として、毎年開催しております。しかしながら、第36回セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮し、従来からの合宿形式での開催が困難と判断し、延期させていただきました。

・第36回創薬セミナー

2020年度は開催中止とし、2021年度は以下の開催を予定しております。

日 時：2021年7月8日（水）～9日（金）

場 所：オンライン開催

5）学術研究・教育活動の奨励・表彰

（1）研究奨励

日本薬学会では、博士の学位を有する多様な薬剤師あるいは薬学研究者の輩出により、薬学のさらなる発展に資することを目的として、日本薬学会学生会員が学位取得を目指して研究に専念するための奨励支援を行うべく、2015年度より採用者へ奨励金貸与を開始しました。2016年度より設置した長井記念薬学研究奨励特別委員会では、運用手続きの整備を行いました。当年度採用者を加え、貸与を継続し、また、選考委員会による選考結果を受け、2021年度採用内定者を決定しました。

（2）授賞

薬学研究の奨励・表彰は、日本薬学会の目的である薬学の進歩・普及にとって重要な事業です。授賞規定に基づいて選考された公正な選考結果を受け、2021年度学会賞受賞者を決定しました。

① 薬学会賞	4 件
② 学術貢献賞	0 件
③ 学術振興賞	3 件
④ 奨励賞	8 件
⑤ 創薬科学賞	1 件
⑥ 教育賞	0 件
⑦ 功労賞	1 件
⑧ 佐藤記念国内賞	1 件

（3）他機関関係賞等への推薦

各財団・機関から本学会への関係賞等の推薦依頼に対し、会員から候補者を選考し、推薦しました。さらに、国（省庁）による表彰について会員から候補者を推薦しました。

6）薬学教育基盤の整備

薬学教育に関する諸課題について、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本医療薬学会、薬学教育協議会、全国薬科大学長・薬学部長会議、薬学実務実習に関する連絡会議、新薬剤師養成問題懇談会（新6者懇）、ならびに日本学術会議薬学教育分科会等と連携し、取り組みを推進してまいりました。

(1) ワークショップの開催

2020年度は、新型コロナ禍の影響により「若手教育者のためのアドバンスワークショップ」は中止とし、「全国学生ワークショップ」はオンラインで開催をいたしました。

・第10回全国学生ワークショップ

日時：2020年8月19日（水）10：00 ～ 16：30

形式：オンライン

テーマ：「薬剤師に求められること ―現在から未来に向けて―」

実行委員長：石井伊都子（千葉大学病院薬剤部）

(2) 第三者確認作業

社会に資する生涯研鑽支援活動の一環として、健康サポート薬局に係る研修プログラムを確認するための第三者機関として、2016年に厚生労働省から本学会が指名を受けています。2019年度までは薬学教育委員会内の組織として活動してまいりましたが、2020年度からは、特別委員会として設立されました。活動につきましては、前年度までに適合とした6機関からの更新申請を受けて確認作業を行い、6機関に適合通知を发出しました。

3 学会情報の配信

日本薬学会の大きな役割に、信頼できる科学情報を社会に発信していくことが挙げられます。薬学関連の学術教育研究、医療における薬学の貢献、さらには薬学分野の行政・産業等に関する最新の動向を、会員間のみならず広く社会と共有し、医療健康福祉社会の発展に寄与するために、適切な手段や機会、あるいは媒体を準備・提供し、会員相互および会員と非会員あるいは社会一般との間で接点を拡大し、情報交流を促進しました。

(1) 社会への発信

会員のCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）に関連する学術研究活動の報告、その他有益と思われる情報の発信を学会のホームページ上で行いました。

(2) 会誌の発行

会誌「ファルマシア」は、会員の広報誌として内外の情報を分かり易く提供し、また会員相互のコミュニケーションの円滑化をはかることを基本として編纂しております。学会広報および情報誌として一層の充実をはかるべく、特集号（6回）とミニ特集号（6回）の企画を含め、年間12号の発行を実施しました。J-STAGE掲載の周知や最新情報の発信に向け、HPの迅速な更新に努めました。

第56巻 発行部数 約15,000部（月刊）

(3) ホームページの更新

対外的にも興味を持っていただける情報発信を強く意識しつつ、一方で薬学に関係する若い世代へエールを送り、薬そのものや学会活動に関心を高めていただけるよう、学会の最新情報の掲載ならびに会員へ向けての情報公開に努めました。また、前年度

に引き続いてホームページの一部を更新し、より見やすくわかりやすい構成としました。

(4) メールマガジンの配信

メールマガジン「ファームナビ」は、配信を希望する Pharm パスポート登録者に「日本薬学会理事会だより」として日本薬学会の動向やメッセージをタイムリーに配信し、学会情報の共有化をはかりました。また、会員への一斉連絡用のツールとしても活用しています。

配信 8 回 配信数 17,600 名 (平均)

また、2020 年 1 月配信開始となった学術誌編集委員会の英文ニュースレターを通じて年会、その他シンポジウム等の広報活動を行いました。

(5) 出版物

薬学普及啓発誌の「高校生のための薬学への招待」と「これから薬学をはじめあなたに」の利用は年 40,000 部に達しています。高校生の進路指導資料として、あるいは薬科大・薬学部 1 年生のガイダンス資料として活用されることで、薬学ならびに薬学部への正しい理解と知識を深めることに寄与しています。2 誌同時の全面改訂作業を進め、2021 年 2 月に刊行いたしました。

また、学生の入会を促進する目的で、薬学会の入会案内リーフレットを刷新しました。今後新入生に向けた配布経路等を検討し、積極的な活用を目指します。

4 他機関との交流協力とグローバル化の推進

1) 他機関との交流協力

他機関との交流と協力をはかり、広く社会に貢献するよう努めました。

① 日本学術会議との連携

薬学の存在感を高めながら、我が国の科学技術の推進に寄与するため、科学者コミュニティを代表する機関である日本学術会議薬学委員会との連携・協力を保ち、共同主催にて以下のシンポジウムを開催しました。

- ・「モダリティーが切り拓く次世代創薬シンポジウム」

日 時：2020 年 12 月 8 日 (火)

場 所：オンライン開催

共同主催：日本学術会議 薬学委員会 化学・物理系薬学分科会

- ・「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」

日 時：2021 年 1 月 18 日 (月)

場 所：オンライン開催

共同主催：日本学術会議 薬学委員会 生物系薬学分科会、日本学術会議
薬学委員会 化学・物理系薬学分科会

② 共催・協賛・講演

本学会と密接な関連をもつ団体の講演会、学術集会を共催、協賛あるいは後援 (別紙 3) 「開催：国内 104 件 (うち中止 17 件、延期 14 件の連絡あり)、国際 2 件」し、積極的に支援してまいりました。

③ 日本化学連合への参画

④ 日本学術振興会への参画

卓越研究成果公開事業におけるデータベース改修ならびにデータ掲載に向け協働しました。

2) グローバル化の推進

諸外国の薬学関係団体ないし薬学関係者との交流を行い、これにより本学会の国際的地位向上および薬学の国際的振興に寄与しました。

① 国際薬学連合 (FIP) に関する活動

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第 140 年会 (京都) にて「FIP フォーラム」を、誌上開催しました。
- ・5月13、14日に開催の「科学部門会合 (BPS Virtual Meeting)」には代表者1名が、また、9月4日には本学会からの代表者3名が出席しました。
- ・9月2日に開催の「Pharmaceutical Scientific Member Organizations (PSMO) engagement event」に、本学会からの代表者2名が出席しました。
- ・11月30日に開催の「Extraordinary Council meeting」に、本学会からの代表者1名が出席しました。

② 交流協定に基づく交流

- ・ドイツ薬学会 (DPhG) より、演者2名を「第140年会 (京都)」へ招待していましたが、誌上開催となりました。
- ・韓国薬学会 (PSK) の秋のバーチャル大会で、10月21、22日に「合同シンポジウム」を開催しました。本学会からの演者2名はオンラインで参加しました。

③ その他

- ・2月25～27日にドバイで開催の「Dubai International Pharmaceuticals & Technologies Conference & Exhibition (DUPHAT) 2020」へ、主催者からの要請に応じ、講師1名を派遣する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い派遣を中止しました。
- ・「AIMECS (AFMC International Medicinal Chemistry Symposium) 2021」(2021年11月29日～12月2日)の東京での開催、また2020～2021年のアジア医薬化学連合 (AFMC) 事務局を本学会 (医薬化学部会) が担当しています。
- ・カナダ薬学会 (Canadian Society for Pharmaceutical Sciences (CSPS)) から合同シンポジウム開催の提案を受け、これに協力することを決定しました。現在、鋭意プログラムの策定を進めています。開催時期: 2021年6月1日～4日

5 学会基盤の整備・確立

1) 会員関連

(1) 会員増強への取り組み

次世代へ向けて、より一層の発展を目指すためにも、会員は、学会の基盤であり財産です。多岐に亘る薬学の学術の魅力の向上を計り、会員増強へ繋げてまいりました。

(2) 会員登録状況

会員数 (2021年1月31日現在) 16,094名

正会員	15,817名
	(一般会員 13,293名)
	(学生会員 2,524名)
永年会員	203名
有功会員(第二項)	36名
名誉会員	38名
賛助会員	201機関

2020年度末(2021年1月31日)現在、正会員のうち1,287名が2020年度会費未納者でした。

(3) 有功会員および永年会員の決定

定款第5条に基づき、理事会において有功会員候補者2名を決議しました。

有功会員 倉石 泰
永沼 章

定款第5条に基づき、理事会において永年会員29名を決定しました。永年会員には、記念品を贈呈いたしました。

永年会員 大澤 富彦 神谷 庄造 久保田 昂 黒川 悦義 黒野 昌庸
小林 征雄 佐武 紀子 首藤 紘一 末吉 祥子 鈴木 重紀
高村 則夫 武田 育子 竹之下玲子 田代田鶴子 谷 佳都
露木 宏 長野 晃三 二階堂 保 西村 憲治 原山 尚
藤本 治宏 松本 和男 森田 淳子 我妻 永利

2) 財政基盤の確立

(1) 賃貸収入と会館の運営

学会運営は、会費と学術事業収入等の経常収入によって賄われるべきものでありますが、本学会では会館の賃貸収入をもって学会運営の大きな部分の財務基盤を補完しております。賃貸事業は社会情勢の影響を多分に受けることから、常に状況把握を行い、管理代理者であるエム・ユー・トラスト不動産管理株式会社と連携を密にし、運営基盤の安定化に資するよう努力してまいりました。

学会が管理する会館施設の運営は、会員の利用施設としての有効活用と、一般社会への開かれた学会としてのイメージアップのため、委託先のビル管理会社と協力して利用者の便に供するよう努めました。

新型コロナ禍の状況下、テナントの維持や、会館の効率的利用を引き続き継続して努力してまいります。

(2) 長井記念館の維持管理

当館の経年劣化に伴う修繕計画について、エム・ユー・トラスト不動産管理株式会社を始めとする関係各社からの情報を基に、主体的に把握するよう努めてきました。現長井記念館は竣工から約30年が経過し、今後、修繕費の一層の増加が見込まれます。理事会では、計画的な改修の計画を進めており、堅実な長井記念館の維持管理を進めてまいります。

(3) 壽稻荷ご祭礼

日本薬学会の敷地の中に祀られている壽稻荷(ことぶきいなり)本殿に対し、毎年二(に)の午(うま)の日に日本薬学会主催でご祭礼を行っております。日本薬学会に旧長井邸の敷地(現日本薬学会 長井記念館)および新館の建設に対するご寄附をいただきました、長井長義先生のご親族をはじめ、多くの薬学関係者や近接町会員等を招いて、金王八幡宮の神職による神事を今年度は以下日程で執り行いました。

日 時：2020年2月10日(月)

場 所：日本薬学会長井記念館

2020年度役員一覧

会 頭	高倉 喜信(京大院薬)
次期会頭候補副会頭	佐々木茂貴(長崎国際大薬)
副 会 頭	堅田 利明(武蔵野大薬) 高山 廣光(千葉大) 小澤光一郎(広島大院医系科学)
常任理事	吉松賢太郎(日本薬学会)
総務担当理事	大塚 英昭(安田女大薬) 金田 典雄(名城大薬) 北川 裕之(神戸薬大) 武田真莉子(神戸学院大薬)
財務担当理事	金 井 求(東大院薬) 横 島 聡(名古屋大院創薬)
広報担当理事	鍛冶 利幸(東京理大薬) 望月 眞弓(慶應大薬)
国際交流担当理事	新井 洋由(医薬品医療機器総合機構) 井ノ口仁一(東北医薬大薬) 野村 泉(武田薬品工業)
編集担当理事	入江 徹美(熊本大院生命科学) 辻 勉(城西大薬)
学術事業担当理事	赤井 周司(阪大院薬) 北嶋 浩(田辺三菱製薬) 藤原 秀豪(日本新薬) 細谷 健一(富山大院薬) 松田 正(北大院薬)
監 事	青木 一真(第一三共創薬化学研) 石井伊都子(千葉大病院薬) 平井みどり(兵庫県赤十字血液セ)

2020年度委員会・支部・部会一覧

常置委員会

役員候補者選考委員会	金田 典雄(名城大薬)
学会賞選考委員会	國嶋 崇隆(金沢大院医薬保)
創薬科学賞選考委員会	佃 拓夫(中外製薬)
教育賞選考委員会	賀川 義之(静岡県大薬)
佐藤記念国内賞選考委員会	平澤 典保(東北大院薬)
創薬セミナー委員会	大高 章(徳島大院薬)
広報委員会	佐藤 康夫(横浜薬大)
ファルマシア委員会	太田 茂(和歌山県医大)
学術誌編集委員会	大槻 純男(熊本大院生命科学)
薬学雑誌	賀川 義之(静岡県大薬)
CPB	中島 誠(熊本大院生命科学)
BPB	上原 孝(岡山大院医歯薬)
総務委員会	高山 廣光(千葉大)
人事委員会	高倉 喜信(京大院薬)

財務委員会	高山 廣光 (千葉大)
国際交流委員会	堅田 利明 (武蔵野大薬)
年会問題検討委員会	高倉 喜信 (京大院薬)
薬学教育委員会	平井みどり (兵庫県赤十字血液セ)
ダイバーシティ推進委員会	高山 廣光 (千葉大)

特別委員会

長井記念薬学研究奨励特別委員会	佐治木弘尚 (岐阜薬大)
薬学教育委員会第三者確認委員会	長谷川洋一 (名城大薬)

支部

北海道支部	周東 智 (北大院薬)
東北支部	関 政幸 (東北医薬大薬)
関東支部	石橋 正己 (千葉大院薬)
東海支部	灘井 雅行 (名城大薬)
北陸支部	木村 敏行 (北陸大)
関西支部	赤路 健一 (京都薬大)
中国四国支部	葛原 隆 (徳島文理大薬)
九州山口支部	能田 均 (福岡大薬)

部会

化学系薬学部会	岩渕 好治 (東北大院薬)
医薬化学部会	巾下 広 (小野薬品工業)
生薬天然物部会	小林 義典 (北里大薬)
物理系薬学部会	飯田 靖彦 (鈴鹿医療大薬)
構造活性相関部会	大田 雅照 (理化研)
生物系薬学部会	杉本 幸彦 (熊本大院薬)
薬理系薬学部会	橋本 均 (阪大院薬)
環境・衛生部会	佐藤 雅彦 (愛知学院大薬)
医療薬科学部会	崔 吉道 (金沢大病院)
レギュラトリーサイエンス部会	合田 幸広 (国立衛研)

事務局

事務局長	奈良 洋
------	------